

中部地方整備局との意見交換会 岐阜県の経済成長と発展に向けて

岐阜県商工会議所連合会では、1月20日、岐阜グランドホテルにおいて、中部地方整備局との意見交換会を行いました。県下15商工会議所の会頭・副会頭ら約30名が出席し、今後の施策や社会資本整備のあり方について、意見交換会を開催しました。

はじめに、岐阜県商工会議所連合会の村瀬幸雄会長より「岐阜県は輸送や移動手段として自動車に依存する地域特性を有するため道路網の整備は重要」と話され、東海環状自動車道岐阜インター、本巣インターの開通による名神高速道路など関西方面とのアクセス向上への期待が示されました。その上で「昨年、養老トンネル工事を視察し工事の進捗を実感した。早期完成に向けた要望活動の必要性を再認識した」と述べられました。

中部地方整備局の佐藤寿延局長は「ある程度長い期間をかけたインフラ整備にめどが付きつつあり、次の中部地方のインフラをどう考えるか。しっかり仕込んでいく時期」と述べられました。また成長エンジンにブレーキがかからないよう、インフラ整備を通じて魅力ある地域づくりを推進していくと話されました。

その後、中部地方整備局より社会資本整備をめぐる最近の動きについての説明があり、意見交換会では高山、恵那、各務原の3会議所より地域諸課題について要望。中部地方整備局各部長・事務所長からの回答など意見交換がなされました。

